

1

柳瀬正夢

1900—1945

時代の光と影を描く



2

YANASE Masamu 1900-1945: A Retrospective

2014年
2月11日[火・祝]—3月23日[日]

休館日:月曜日

開館時間:午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料:一般1,000円(900円)、20歳未満・学生850円(750円)
65歳以上500円、高校生100円

*()内は20名以上の団体料金です。

*中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。

その他の割引につきましてはお問合せください。

*ファミリー・コミュニケーションの日:

毎月第1日曜日(今回は3月2日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

主催:神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

特別協力:柳瀬正夢研究会

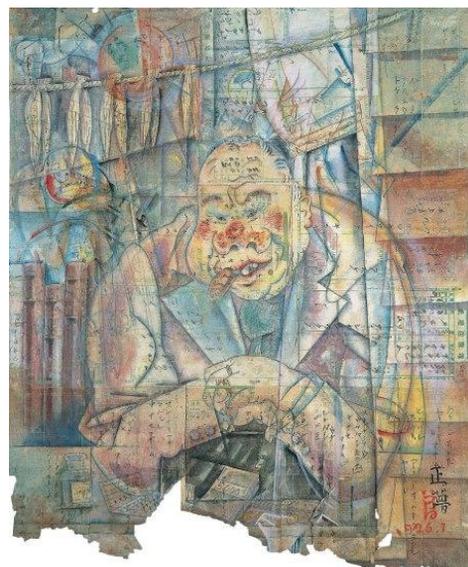
協力:漫画資料室MORI

武蔵野美術大学 美術館・図書館

柳瀬正夢全集刊行委員会

協賛:ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

日本テレビ放送網



3

神奈川県立近代美術館 葉山

The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1

tel. 046-875-2800

http://www.moma.pref.kanagawa.jp

●お問合せ先

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1

tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968

広報担当:土居、松尾、鈴木

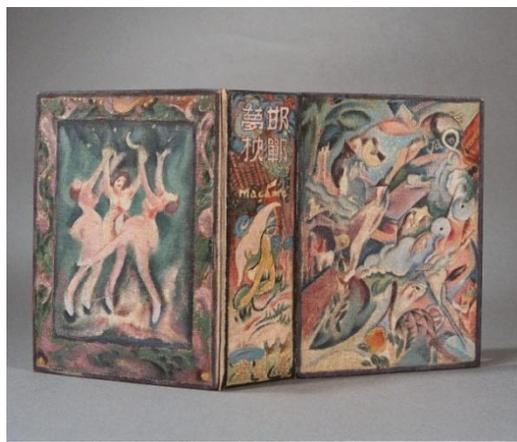
展覧会担当:西澤、是枝

The Museum of
Modern Art,
Kamakura &
Hayama

神奈川県立近代美術館



4



5

大正の未来派美術運動から昭和のプロレタリア美術運動へ、時代の光と影を描く。

柳瀬正夢^{まさむ}[1900-1945]は、15歳で再興第2回院展に入選するなど、早くからその才能を開花させました。本展では、45年という生涯の中で絵画のみならず漫画、装丁、舞台美術、写真、俳句など、幅広い活動を展開した柳瀬の全貌を、代表作の絵画作品や関連資料約650点で振り返ります。

第1章 1900-1923

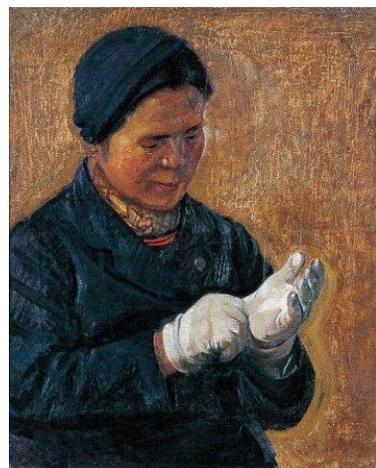
少年時代を松山(愛媛県)、門司(福岡県)で過ごした柳瀬は、1914年に最初の上京を果たします。未来派美術協会やマヴォといったグループに参加し、最先端の芸術思潮を次々と吸収しながら、その多彩な才能を開花させていきました。

第2章 1923-1932

1923年9月1日の関東大震災は、柳瀬の画業に決定的な影響を与えます。柳瀬はしだいに絵画から離れ、時局を巧みに諷刺した漫画やポスターなど、グラフィックの世界に活躍の場を移しました。

第3章 1932-1945

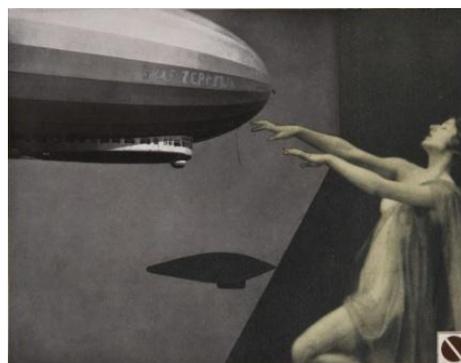
1932年、柳瀬はプロレタリア運動に深く関わったことにより逮捕され、活動を厳しく制限されます。妻の死など苦境をへて、ふたたび絵画を描き始めた柳瀬は、日本各地や中国大陸を旅し、俳句や写真に取り組みました。しかし、新たな展開が期待された矢先、1945年5月の空襲で命を落とします。



6



7



8

〈関連企画〉

● 記念講演会

2月11日(火・祝)午後1時-2時30分
講師:長田謙一(名古屋芸術大学大学院教授)
会場:神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
申込不要(当日先着順)、無料

● 学芸員によるギャラリートーク

2月22日(土)、3月22日(土) 各日午後2時-2時30分
申込不要、無料(ただし「柳瀬正夢」展の観覧券が必要です。)

※関連企画の詳細はホームページをご覧ください。

〈作品画像〉

1. 《自画像》1916年頃 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵
2. 《五月の朝と朝飯前の私》1923年 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵
3. 《郊外の大地主さん》1926年 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵
4. 《果樹島園》1918年 福岡県立美術館蔵
5. 《邯鄲夢枕(かんたんゆめまくら)》1918年 個人蔵
6. 《市バスの車掌 白手袋をはめる》1936年 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵
7. 《運藤為太(うんとためた)一家の迎春[原画]》(『読売サンデー漫画』1931年1月1日) 1931年 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵
8. 《真夜中から7時まで No. 101 対面(6)[原画]》(『読売新聞』1932年9月21日夕刊) 1932年 武蔵野美術大学 美術館・図書館蔵